



すがすがしい秋の風が吹く今日このごろ、皆様ますますお元気でご活躍のことと存じます。患サポ通信では、当院各科・部の特色や新たな取り組みをご紹介します。今号は「歯科口腔外科」と「形成外科」と「NICU」をご紹介します。

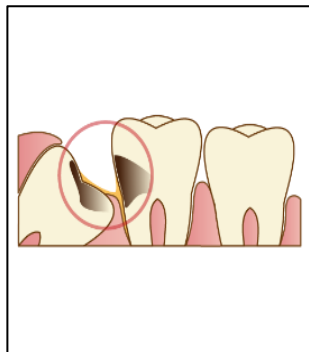


歯科口腔外科

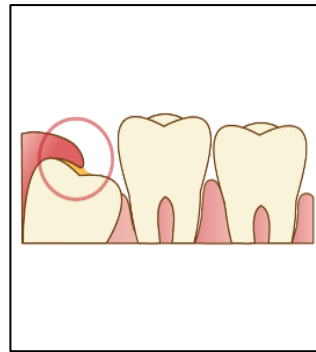
口腔外科(こうくうげか)とは?

口腔(くちの中)、顎(あご)、顔面(がんめん)ならびにその隣接組織に発症した疾患を扱う診療科です。一番多いのは、親知らずの抜歯です。その名の通り、親の手を離れる高校を卒業する頃から生え始めますが、横になって埋まっていることが多く、これを水平埋伏歯といいます。この状態だと、親知らずが完全に生えてくることはなく、隙間に食べかすが入り込んで、手前の歯が虫歯になり、また周囲の歯ぐきが炎症を起し、痛みを伴うこともあります。一度痛みがでると、必ず2度3度と痛みを繰り返しますので抜歯の適応となります。また、歯が埋まっているため、抜歯は困難になることが多く、合併症もあります。気になる時は、かかりつけ歯科医院に相談し、口腔外科を紹介受診していただければと思います。

【歯科口腔外科】



汚れが溜まって虫歯になる。



汚れが溜まって歯ぐきが炎症を起す。





形成外科

当科では、身体に生じた変形や欠損、傷跡などをきれいに治すことを主な目的とし、患者様の不満足を改善する治療を幅広く行っています。あらゆる技術・手法を駆使し、機能だけでなく形態的にもより正常に、より美しくすることによって、皆様の生活の質（Quality of life）の向上に貢献します。

具体的な治療対象は、切り傷や顔面骨折などの外傷、熱傷（やけど）、口唇口蓋裂・耳介変形・胸郭変形・多指症・合指症などの先天異常、皮膚腫瘍、乳房の再建、顔面神経麻痺、リンパ浮腫、あざやケロイドの治療、眼瞼の手術など多岐にわたります。特定の臓器や部位によらず、身体外表のあらゆる部位を治療対象としております。

形成外科で治療をうけた方々が笑顔で社会生活に復帰していく姿を見ることが我々のやりがいです。お困りのことがございましたらいつでもご相談ください。

【形成外科】



NICU

総合周産期母子医療センター新生児部門

【NICUの診療内容】

総合周産期母子医療センターはみらい棟3階にあり、「母体・胎児部門」と「新生児部門」があります。新生児部門は新生児集中治療室（NICU）15床と専用後方病床（GCU）12床で構成されています。専属の小児科医、看護師が24時間体制で診療しています。臨床心理士、医療相談員、理学療法士、臨床工学技士と協力して診療を行っています。

【当科の役割】

福島県内全域から、高度な医療を必要とする低出生体重児や先天性の心疾患・外科疾患児を中心に入院を受け入れています。当院NICUでも22週で出生したお子さん、300g未満で出生したお子さんが生存退院するようになってきました。我々は、入院したお子さん、そしてご家族が安心して退院後も過ごせるよう、患者サポートセンターと話し合いを重ね、退院の調整を行っています。

小児科外来では、発育・発達を中心とした退院後のフォローアップを行っていますので、何かお困りのことがございましたらお気軽にご相談ください。

【NICU】

